SAGA UNIVERSITY Magazine

佐賀大学広報誌 かちがらす

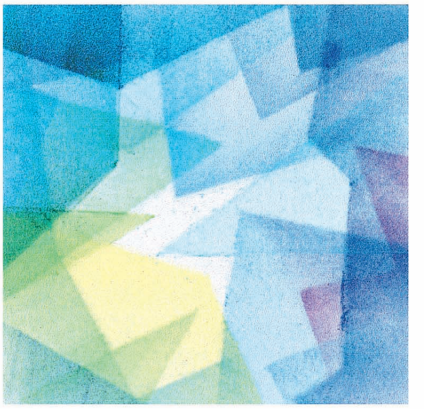
2007年春
～夢を掴んだ先輩たち～

活躍する佐大OB
コカ・コーラウエストジャパン(株)
代表取締役社長　原田　忠継さん

サークル紹介
ジャズ研究会、弓道部

学生ボランティアグループ
「スマイルプール」

充実感いっぱい!!
看護師の一日　etc



第10号　2007

2007 夢を掴ん

常に初心を忘れず、人間性UP

株式会社 SUMCO

工学系研究科機能物質科学専攻卒
稗田 大輔（ひえだ だいすけ）さん

1 どのようなきっかけで、今の会社を選ばれましたか？

私が学部生の頃に受講したシリコンをテーマにした無機化学の講義の中で、教授が実際にシリコンウェーハを見せながら講義をしてくださり、さらには当社の製造本拠地が佐賀県にあることを知りました。そこで自分なりに調べてみたところ、現在300㎜シリコンウェーハで世界シェアが2位で、今後も世界トップを目指して邁進している活気ある企業であることを知り、企業研究をしていく中で最も魅力を感じたため、第一志望の企業として選びました。

2 今の会社に入るためにどんな努力をしましたか？

第一に、インターネットや就職活動誌、テレビや新聞などのメディアを活用し、当社に関する情報や、その競合他社との比較検討をすることで、企業としての将来性や、企業価値を調べました。また、その他にも私の研究室の先輩はもとより、佐賀大学内から多数の先輩方が入社されていたので、実際にその先輩方にお話を伺い、働いてみなければ分からない楽しさや苦しさを含め、どのような企業であるかを知ることに、特に労力を費やしました。

3 後輩へのメッセージをお願いします。

これから就職活動をされる皆さんで、志望業種が決まっている、あるいはそうでないにしろ、できるだけ多くの業種について幅広く調べ、実際に様々な企業に足を運び、話を聞くことをお勧めします。全く関係がないと思っていた企業でも意外と自分の専門を活かす事ができたり、実際に足を運ぶことで、その企業のイメージが180度変わることもあると思います。このように広く活動することで、皆さんの未来を切り開いてください。

自分に自信をもつて

株式会社 山口銀行

経済学部経営・法律課程卒
渡邊 千尋（わたなべ ちひろ）さん

1 どのようなきっかけで、今の会社を選ばれましたか？

今の会社で働くことを就職活動前から意識していたわけではありませんでしたが、就職活動を通して私に行風が一番合っていると感じたのがきっかけです。就職活動の際、私は一つの会社や業界に絞ってみるのではなく、いろいろな業界を回ってみて自分に一番合っている会社や自分の可能性について模索してみました。その中で、当行の先輩行員が「当行の売りは『人』である」と明言し、一番いきいきしているように感じたことで、純粋に働きたいという気持ちになりました。

2 今の会社に入るためにどんな努力をしましたか？

今の会社に入るために努力したこととしては、やはり当行を受ける前にやってきた他社での就職活動が挙げられると思います。私の場合、いろいろな業界に興味を持っていたことで他の業界からの視点でも客観的にどういった人材が求められているのかを考えることができました。また、自己分析についても他社の面接を受けていく内に、深く掘り下げて考えることができたため、様々な質問を自分と関連付けて答えることができました。

3 後輩へのメッセージをお願いします。

これから、就職活動をなさる皆さんは就職活動において様々な壁にぶつかることになるかもしれませんが、どんなときも自分に自信をもって最後まで頑張ってみて下さい。自分に自信をもつということは難しいことかもしれませんが、皆さん一人一人が素晴らしいものを必ず一つと言わずもっています。自らを見つめなおし、誇れるものを見つけたならば、それを継続して磨き、ゆるぎない自信としていって下さい。

年春だ先輩たち

自分自身の成長に繋がると信じて

東京海上日動火災保険株式会社
文化教育学部国際文化課程卒
川原（かわはら）　まりこさん

1　どのようなきっかけで、今の会社を選ばれましたか？

私が東京海上日動火災に入社したいと思った理由は大きく二つあります。

一つ目は保険というお客様に安心と安全を提供する商品を通し、社会に貢献できる仕事ができるということです。大学生活で取り組んだボランティア活動を通して、人に喜んでもらえることの素晴らしさを知り、身近で社会に貢献できる仕事をしたいと考えていたからです。

二つ目は先輩社員の方から「目標を持って働くことのできるいい会社だと思います。」という率直な声を直接聞けたことです。就職試験を通して出会った先輩社員の誰もが溌剌として、当時学生だった私の意見でも興味を持って聞いてもらえたことで、人を大切にしている会社なのだろうと感じることができました。

2　今の会社に入るためにどんな努力をしましたか？

本当に基本的なことですが、「絶対にこの会社に入りたい！」と思うようになってからは会社の詳細（事業内容・将来の展望・社会貢献活動等）を徹底的に調べ、直接会社の先輩と話しをさせていただいたりしました。その上で入社したいという自分の意思を確かめられたので、入社試験の面接でも迷いなく、そして楽しみながら積極的に受け答えをすることができたと思います。

3　後輩へのメッセージをお願いします。

就職活動ではわからないことや悩むことばかりと思います。しかし、就職活動の時ほど自分自身を見つめ、社会に目を向ける機会はめったにありません。前向きにとらえ、自分自身の成長に繋がっているんだと信じて楽しみながら頑張ってください。

悔いのないように楽しんで

1　どのようなきっかけで、今の会社を選ばれましたか？

もともと農業に適した土作りがしたくて大学へ進学しましたが、進学後、学科選びを間違っていたことに気付きました（笑）。思い描いていた勉強・研究ができない代わりに「土木」分野との出会いがあり、すぐに私の興味はそちらに移りました。

就職を考える際に「学んだ事を活かせる」「地元への貢献」といった点で県庁が魅力的であったのは間違いありません。しかし、私が現在の職に就いた一番のきっかけは、偶然とは言え「土木」に出会った事だと思います。

2　今の会社に入るためにどんな努力をしましたか？

筆記試験は自分にあった勉強法を見つけ、とにかく勉強しました。勉強した分、自信へと繋がります。

面接では数十分間で自分の魅力を伝え、さらに印象付けなければならないため、自己分析をしっかり行ないました。私の場合、素敵な仲間と出会えた茶道部・農学部での経験と様々な国際交流の体験をメインにお話しました。

試験用の特別な努力ではなく、それまでの経験が付加価値を付け、自己を高めることができるのではないでしょうか？そういった点が認められたのだと思います。

3　後輩へのメッセージをお願いします。

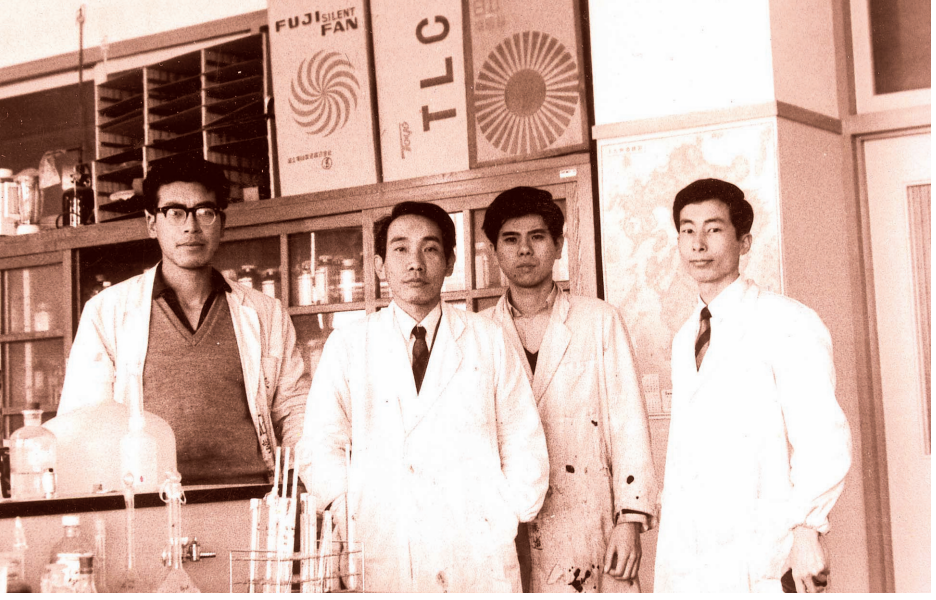
就活でも何でも、楽しくするのもしないのも自分次第。辛い・大変といわれている就職活動は嫌なことも山ほどあるでしょう。でも、考えてみて下さい。これだけ自分のことだけを考えていて許される時期は、長い人生どれほどあるでしょうか？じっくり考えながらも悔いのないように楽しんで下さい。

また、いろんな興味を持って下さい。関係なさそうなものが実は自分の仕事と繋がっているところを発見すると、それは新しいものの見方となって自分を成長させてくれます。

佐賀県庁
農学部生物生産学科卒
小松（こまつ）　修士（しゅうじ）さん

へ入社しました。

「コカ・コーラ」の名前は今でこそ世界一の知名度と云われていますが、当時は日本国内で販売されてからまだそんなに歴史が経っていない頃で、私が入社した「日米コカ・コーラ」（創業昭和三十七年）は、若い人の集団、またキャッチフレーズの「スカッとさわやか」、そして人目を引くユニフォーム・トレードマークなど、私には実に魅力的な新興会社として感じられました。また、初代社長 故市村清氏は佐賀出身の方でしたので、このことも共感を覚えたことの一つです。



学生時代　農学部の研究仲間（写真左：原田社長）

入社後は、営業職としてトラックに製品を積んでお得意先を訪問し、受注・納品・空容器の回収・精算・広告活動など、当時「一人七役」と云われた仕事の毎日、まさに肉体労働でした。

福岡・長崎・飯塚・北九州の営業所を転々とし、その後本社での企画系の業務を担当、今年三月よりコカ・コーラウエストジャパン株式会社の代表取締役社長に就任、といった略歴です。

気がつくと入社から三十九年もの時間が経過していましたが、この間、会社も実に大きく変化しました。山陽コカ・コーラ社・近畿コカ・コーラ社との合併等で社名は変わり、また規模も随分と大きくなり、社員の数もかなり増えました。また一方、多くの先輩・後輩が六十歳の定年退職を迎え、会社を去っていきました。

入社してからの三十九年間を振り返って思うところは、佐大時代に学んだ「化学」「フグ毒の解毒作用」などとは、全くといって良い程縁のない仕事ではありましたが、今日の自分があるのは、今まで出会った多くの「人」との関係だと思っています。先輩・同僚・後輩、そして取引先との人間関係なくして、今の自分はあり得ないと思っています。

「五つの習慣」と「一つの基礎」

コカ・コーラビジネスの「グッドウィル」

コカ・コーラビジネスの基本として「グッドウィル」というものがあります。GOOD　WILLと書き、人との信頼関係を築く基本となるものです。このグッドウィルを得るための原則として「五つの習慣」と「一つの基礎」というものを身に付けよう！このことを新入社員研修から常に教えています。その五つの習慣とは

- **感じの良い服装・身なり**
- **明るい表情、挨拶**
- **親しみのある話し方、態度**
- **お得意様に関心を持つ**
- **熱意**

そして基礎となるものは「誠実さ」

これら六つのことを日々身に付け、お客様からの信頼を得ること、つまりこの「グッドウィル」の獲得なしには私達の仕事は旨くはいかない、と常々云っています。

実に単純で平易な内容ですが、このグッドウィルの原則は色々な場面で応用できると思っています。先ほど申し上げたその後の三十九年間の会社生活で築きあげた人間関係は、まさにこの「グッドウィル」の成果ではなかったか、私自身そのように思っています。

佐大生の皆さんへ

私が在学していた当時から佐賀大学も実に発展し、今日に至っています。こうした母校の発展に一卒業生として大変誇りに思っております。

在学生の皆さんは勉学に、また色々なことに大いにチャレンジし、そして多くの人との出会い、交流を大事にしていただきたいと思います。「グッドウィル」という言葉、少しだけでも記憶していただければ幸いです。

三十九年の思いと「グッドウィル」

佐賀大学広報誌への原稿を依頼され、久し振りに佐大時代を思い起しました。卒業して39年が経過しましたが、初めて親元を離れ佐賀で生活した4年間、多くの友人を得た懐かしい時代です。

コカ・コーラウエストジャパン株式会社
代表取締役社長
原田（はらだ）忠継（ただつぐ）さん
昭和四十三年 農学部卒

佐大時代の四年間

昭和三十九年（一九六四年）に農学部農学科（農業化学コース）に入学、学生番号は確か「三十九A―三十九」だったと思います。

卒業して三十九年目にこの原稿を書く中で、この「三十九」という数字にあらためて因縁めいたものを感じます。

農芸化学では「生化学」を専攻。卒論のテーマは「システイン（アミノ酸の一種）によるフグ毒（テトロドトキシン）の解毒作用」という内容だったと思います。

故藤井教授の指導のもと、生体実験として校内で飼育していたハツカネズミにフグ毒、そしてシステインを注射しネズミの反応を見る、そんな毎日でしたが、数多くのネズミを殺害したことに本当に罪の意識をもったものです。

また私生活においては、親戚の家を皮きりに下宿・間借りなどを四年間で五ヶ所程転々とし、その度にリヤカーでわずかな荷物を運んだことを記憶しています。当時、間借りは六畳一間が三千円位でしたが、親からの仕送り（七千円）、奨学金（三千円）、これに家庭教師のアルバイト収入を加えての生活は、まずまず自活できたレベルだったと思います。部屋では、マージャン・囲碁・将棋・酒盛りなど、おかげで友人も数多く得られ楽しかったことばかりが思い出されます。こうした当時の友人とは今でも交流があり、私の人生の支えにもなっております。

卒業後の三十九年間

昭和四十三年（一九六八年）三月に卒業し、いくつかの会社の採用試験での失敗を経験しながら、現在のコカ・コーラウエストジャパン株式会社（当時は日米コカ・コーラ、その後、北九州コカ・コーラボトリング株式会社）

大会優勝！目標実現へ

弓道部

私たち佐賀大学弓道部は現在部員25人で、本庄キャンパスの最も奥にある弓道場で活動しています。練習日は週に4回あり、みんなで真剣に、そして楽しく練習に励んでいます。練習が終わってからも自由練習などで多くの人が夜遅くまで頑張っています。

また、弓道部では新歓コンパやレクリエーション、追い出しコンパなどがあり、飲み会を催したり、夏休みには部員みんなでキャンプに行ったりと、弓道以外でも仲良く楽しく活動をしています。

主　将
大津好清（おおつこうせい）
理工学部機械システム工学科３年

弓道の大会は大きなもので九州新人戦指宿大会、西九州学生弓道選手権大会、西日本学生弓道選手権大会、インカレ、全日本学生弓道選手権大会、全九州学生弓道選手権大会などがあり、小さいものでは佐賀県弓道連盟などが主催する春季大会や秋季大会などのたくさんの試合があります。みんな普段以上に集中し、一生懸命練習して試合に臨みます。佐賀の試合では多くの部員が入賞し、賞品などをもらっています。また、これらの大会の他に長崎大学や久留米大学、九州大学などと交流戦を行っており、試合や試合後の飲み会などを通じて他大学の弓道部員との繋がりも広がっています。

大会の他にも弓道連盟が開く定期審査があり、その定期審査によって段、級をもらうことができます。大学から弓道を始めた部員も段を取得しており、高校から続けている部員には３段、４段といった高段を取得した者もいます。

このように、弓道部にはたくさんのイベント、大会、審査があります。そしてみんなそれぞれ「大会で優勝を狙う」や「審査でもっと上の段を取得する」といった目標をもって、日々練習しています。それぞれの目標が実現できるようにこれからもみんなで一緒に頑張っていきたいと思います。

自分たちが楽しめる演奏を目指して

ジャズ研究会

部　長
阿立悠太（あだち ゆうた）
理工学部物理科学科３年

私たち佐賀大学ジャズ研究会 Full Swing Jazz Orc. は、今年学校公認団体への昇格 30 周年という節目の年を迎えます。現在は、現役（１～３年）31 名、学内 OB・OG（４～院２年）19 名の計 50 名が在籍しており、ビックバンド演奏やコンボ演奏を中心に活動しています。

ビックバンドとは、サックス・トランペット・トロンボーンなどの管楽器と、ピアノ・ギター・ベース・ドラムなどのリズム楽器の 15 ～ 20 人で編成するバンドのことです。日本でも有名なカウントベイシー楽団などを参考に演奏しています。

またコンボとは、トリオ（３人）、カルテット（４人）、クインテット（５人）……などの少人数編成のバンドを言います。

これらの発表の場は、年２回行われる大学祭や「まちおん」という佐賀の音楽イベントなどです。また、新入生勧誘ライブや卒業生追出しコンパ、夏の合宿なども行っています。

さらに、医学部にある軽音楽部とも以前から親交があり、お互いの定期演奏会で合同ビックバンドの演奏を行ったりもしています。

私たちジャズ研究会は、高校や中学の部活と違い、イベントの企画・運営や、サークル自体の運営についても、ほとんどを自分たちだけで行います。そのために、サークル運営や演奏に関して意見のくい違いが起こることもありますが、聴きに来てくださる方に楽しんでいただける演奏、そして何よりもみんなで楽しめる演奏を目指して、活動しています。

これらの１年間の活動の集大成とも言うべきものが、定期演奏会です。曲決めや練習という演奏面だけでなく、企業の方への広告の依頼や広報活動など、２時間程のステージのために約半年をかけて準備をしていきます。

その定期演奏会も今年で 22 回目を迎えることになりました。12 月 15 日（土）18:30 から佐賀県立美術館ホールで予定しております。今回も皆様に楽しんでいただけるステージを目指して、部員一同頑張ってまいります。多くの方々の御来場をお待ち致しております。

未来のユビキタス社会の主役を育てる工業系高等学校との連携プロジェクト

理工学部知能情報システム学科
教　授
渡　辺　健　次（わたなべ　けんじ）

注目を集める「ユビキタス社会」

ラテン語の「同時に至る所にある、遍在する」という意味の言葉に由来するユビキタス (Ubiquitous) は、あらゆる生活家電品や情報機器がネットワークで結ばれ、その統合化されたシステムが人々の生活に寄与することが期待されている「ユビキタス社会」として、多くの注目を集めています。

既に“おサイフケータイ”などの RFID 技術、ワイヤレスネットワーク、センサーシステムなど、いくつかの技術が実用化されてはいますが、ユビキタス社会はこれから創造される社会であり、それは人が創り出すものです。多くの人の多彩なアイディアをシステム化することが求められています。

次代を担う人材の育成

このユビキタスシステムの実現には、ソフトウェア、ハードウェア、そして次世代ネットワーク技術を基盤とし、システム化する必要があります。そのためには、これらを備えたユビキタス社会を創造しうる人材を育成する必要があり、また、人材育成の場を開発する必要があります。

そこで我々は、工業高校、工業高等専門学校などの工業系高等学校と連携することで、高校生が中心となってユビキタスシステムの創造的開発を行う「工業系高等学校における IPv6 を用いたユビキタス社会実験研究プロジェクト」を、2001 年度から行っています。

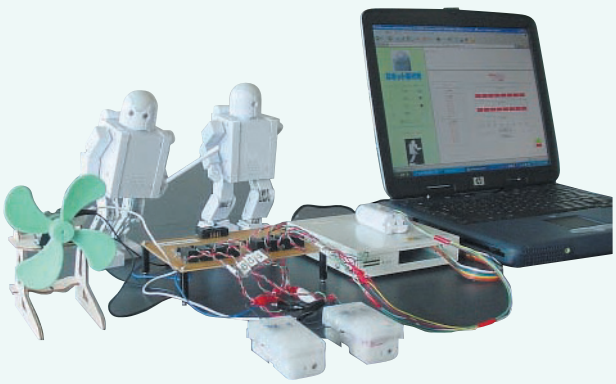
ユビキタスでロボットの遠隔操作

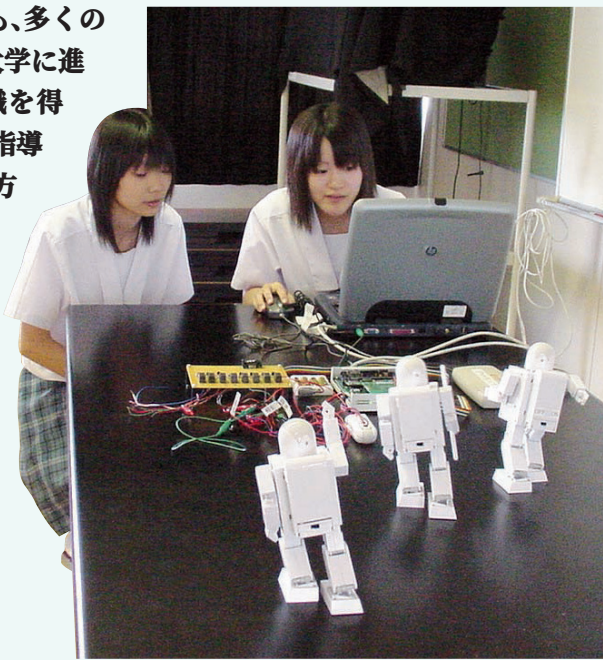
このプロジェクトでは、佐賀大学が中心となり、佐賀、広島、宮崎、大分、沖縄、山梨、北海道の工業系高校の生徒とともに、ロボット等の遠隔操作実験、ユビキタス住宅模型の製作といった、IPv6 を用いたユビキタス社会実験研究を実証的に行っています。

現在の高校生は、未来のユビキタス社会の主役でもあります。すなわちこのプロジェクトは、彼・彼女ら自身が中心となる未来社会を、自らの手で創り出す活動を現在行っているという点に、大きな意義があります。

未来に向けて

このプロジェクトの成果として、総務省次世代高度ネットワーク推進会議より「利用促進賞（地域貢献推進賞）」の受賞、また、多くの学術論文の発表などの学術的な成果の他、プロジェクトに取り組んだ工業高校の学生や先生を多いに刺激している点が、挙げられます。佐賀においても、多くの工業系高校の高校生が、大学に進学してより専門的な知識を得ようとしています。また、指導している工業高校の先生方が博士号を取得されたり、また取得を試みられています。徐々にではありますが、人材養成の成果も出つつあります。





ロボットの遠隔操作

医学部に危機管理医学講座を新設
NBC 災害対応研究の拠点

危機管理医学講座教授
奥村　徹（おくむら　てつ）

本年１月１日に、危機管理医学講座が新設されました。危機管理医学の対象とする研究領域は、広く医療安全から、空港災害、航空医療、NBC（nuclear: 核、biological: 生物、chemical: 化学）災害やテロ対応までです。

医療安全はこれからの臨床医学では欠かせない重要な分野です。ともすると、医療安全は、医療事故の責任追及を行うことではないかという誤解もあるかもしれませんが、あくまでも、医療安全学とは、病院内で起こる様々な有害事象に関して、誰が（who？）、ではなく、なぜ（Why？）起こったのかを解析する、医療の発展のためには不可欠な学問体系です。附属病院の安全管理対策室の業務もあわせて、より安心、より安全な医療の向上に努めたいと思っております。

我が国の NBC 災害の歴史をひもといてみますと、核災害では、広島・長崎の原子爆弾投下に始まり、第五福竜丸事件、東海村臨界事故が挙げられます。生物災害に関しては、オウム真理教による一連の生物テロ未遂事件があり、O157 集団発生事件、雪印食中毒事件も生物学的な災害であるといえます。化学兵器災害に関しては、5000 名以上の被害者を出したと言われる広島県大久野島の毒ガス製造・工場解体時の被害、松本サリン事件、東京地下鉄サリン事件、和歌山カレー毒物混入事件に代表されるような数々の毒劇物混入事件も起こっています。このように日本は、NBC いずれの被害にも遭っている、世界的に希有な存在であると言えます。このため、我が国は NBC 災害対応を研究し、アジア、世界に対し有意義な情報を発信してゆく責務があるものと考えております。

「スマイルプール」障害のある子どもたちをプールでサポート

子どもの笑顔に笑顔でこたえよう

スマイルプール代表 吉田翔一（よしだ しょういち）
文化教育学部学校教育課程４年

「スマイルプール」は、企画・運営のすべてに佐大学生がかかわるボランティアグループです。

そこには、子どもと一緒に遊び、子どものことを真剣に語り合い、子どもの笑顔に笑顔でこたえようという先輩たちの願いが込められています。

「スマイルプール」は障害のある子どもたちをプールでサポートする活動です。水に親しませ、潜る楽しさを教え、最終的には泳げることを目標にがんばっています。

「スマイルプール」の仲間たち

参加するきっかけは、「楽しいから１度来てみて！」という友だちからのメールでした。

プールと聞き、正直言って抵抗はありました。でも楽しそうという軽い気持ちで参加しました。３年目をむかえ、今では学生生活の一部になりました。毎週子どもたちの笑顔が見たくて参加しています。

ふりかえってみると、
３年前に何も泳げなかった子が 25 メートル泳げるようになりました。
〃　に水を怖がっていた子がプールで歓声をあげています。
〃　にプールに入れなかった子が水しぶきをあげ、はしゃいでいます。
中には、「スマイルプール」を卒業し、一般の子どもと同じスイミングスクールに通っている子もいます。

障害をもっていても、特別な子どもという感覚で接したことはありません。すべての子に得意、不得意があるように、それが個性です。目標に向かって後押ししてあげることが個性を伸ばすことだと考えています。

ボランティア活動をすれば、交流の輪が広がります。
障害児への考えも深まり、自分自身の成長を実感することができます。
プールでは、気の合う素敵な仲間たちとかわいい子どもたちの出会いが待っています。たくさんの人にボランティアの素晴しさと楽しさを体験してほしいと思います。（文責／吉田翔一　青木絵実子　小寺寛子）

充実感いっぱい!!

看護師の一日

人々に感謝しながら、私の一日の幕があく

医学部附属病院
副看護師長(2 階東病棟)
諸岡 真由美(もろおか まゆみ)

ピコピコッ、ピコピコッ。目覚まし時計の音で重い瞼を開ける。“もう朝が来た。さっき眠ったばかりなのに”という思いで私の一日の幕があく。

私が看護師になった理由は定かではないが、まずはいとこの影響が大きく、その当時、白衣姿にあこがれてしまったことかなと考えている。しかし、決して楽ではない、時にはうさんくさい看護師の仕事、それを選んだ私の職歴がこの病院とともに築かれるとは夢にも思っていなかった。そんな中で、結婚、忘れたころに出産という私の中の転機がぽつんぽつんと訪れた。

職業人として、母親として、その両立ができるのかという葛藤の中で、私は、育児休業後に復帰の道を選んだ。全く新人にもどった気持ちで、一からの出直しであった。

話は戻るが、遅くとも午前七時に夫と子供を起こす。それから家族と時間との戦いが始まる。子供に朝食をとらせ、保育園への身支度をすませ、“いってきます”のタッチをしたら一足先に家をでる。第一ラウンド終了。車を走らせながら何だかホッとする時間がもてる。そんな時間もつかの間、第二ラウンド開始。病棟に着くと、朝の挨拶もつかのま、申し送り、確認事項がチェックされると患者さんのもとへ急ぐ。そして、患者さん、医師、看護師、他部門とのやりとりに刃を抜く。しかし、その戦場は、時にはお笑い劇場に化することもあり、時には考えさせられ、グッと涙をこらえるドラマのようなできごともあり、すさんだ心が洗い流される。仕事の中にオアシスを感じる瞬間である。そんな仕事の醍醐味を知った私はやめることができず(もちろん生活のためでもあるが)今日まできているのだなと思う。

最終ラウンドは子供を床につかせるまでのひと時。絵本を読み聞かせているうちに自分が先に眠っていたりする。一日の終了。

看護師という職業は、ともすれば敬遠されがちな職種ではある。しかし、自分がその患者さんに関わって、患者さんが本来の自分を取り戻されたと手ごたえを感じたとき、充実感が得られる。そのとき、私はその患者さんに援助すべき手をはなす。身と心のぶつかりあいに快感を感じられる私はもう少し看護師を続けていこうと思う。家族をはじめ、私を取り巻く人々に感謝をしながら･･･

最後に、私は白衣に憧れ、看護の世界に飛び込み、自分の経験とともに仕事の土台を踏み固めつつ今日まできた。社会で自立していくことはどんな仕事でも努力が必要だ。私は、自分が行った努力が必ず報われるのが看護という仕事だと確信する。“喜怒哀楽、さまざまな表情をみせる興味深いこの職業をもっと知ってもらいたい”そう思いながら、自分をふりかえった。これから看護師を目指そうとする方へのヒントになればという想いも込めて･･･。

学長賞受賞者の表彰

工学系研究科
代表者　柴崎（シバザキ）　徹（トオル）　他7名

平成18年度土木学会全国大会
コンクリートカヌー競技
ポスターセッションの部
準優勝／競漕の部　3位
総合の部　優勝

女子剣道部
代表者
山口（ヤマグチ）　知子（トモコ）
他7名

第56回九州地区大学
体育大会剣道大会
女子団体　優勝

「高い誉れは人様に　重い荷物は我が肩に」これは、私たちの師が酒を飲む席でよく言われた言葉です。そんな教えを受けた私たちに、この様な名誉ある賞を頂き誠にありがとうございます。「どうせやるなら腹一杯」そんな気持ちで私たち17人の女侍が九州の頂点に立てた事は、先生、先輩、後輩、すべての方々に支えられ教えられ導かれたおかげだと部員一同、恩を感じています。次は、剣道王国九州に佐賀大ありを目標に全国で挑戦します。私たちは結果を残すことが、一番の恩返しだと思っています。一つでも多くの恩返しができるよう、努力してまいりますので、応援の程よろしくお願いします。

文化教育学部
鶴丸（ツルマル）　なつき

第21回西日本女子
学生剣道大会
優秀選手賞

医学部
小西（コニシ）　舞（マイ）

第45回九州・山口
医科学生体育大会
（柔道）　優勝

理工学部
俵（タワラ）　和雅（カズマサ）

九州大学学生アマチュア
ボクシング選手権大会
ライト級　優勝

工学系研究科
平（タイラ）　順一（ジュンイチ）

43rd Japanese Peptide
Symposium and 4th Peptide
Engineering Meeting
Student Poster Award

文化教育学部
後藤（ゴトウ）　由希子（ユキコ）

第70回新制作展
スペースデザイン部
入選

文化教育学部
渋江（シブエ）　修平（シュウヘイ）

第6回 Digital Art
Award 2006
デジタルシネマ部門特別賞

文化教育学部
灰塚（ハイヅカ）　みゆき

第36回日彫展
入選

文化教育学部
一ノ瀬（イチノセ）　麻子（アサコ）

第58回毎日書道展
U23　大字書部門
奨励賞

文化教育学部
古賀（コガ）　哲也（テツヤ）

第58回毎日書道展
U23　大字書部門
奨励賞

文化教育学部
野中（ノナカ）　誉文（タカフミ）

第58回毎日書道展
U23　大字書部門
奨励賞

文化教育学部　差形（サシカタ）　恵梨（エリ）

第36回日彫展
入選

この度、学長賞をいただきました事を大変嬉しく思います。大学生活の中で彫刻に出会い、制作に励み、全国公募に挑戦する事ができました。先生を始め、多くの方々の支えなくして実現しなかった事です。更に学長賞へとつながった事は、大きな励みとなりました。今後も、佐賀大学卒業生として、何事にも懸命に取り組み、頑張っていきます。

文化教育学部　塚原（ツカハラ）　篤史（アツシ）

第58回毎日書道展
U23　大字書部門　新鋭賞

この度は、学長賞という名誉ある賞を頂きまして、大変嬉しく思います。学部四年間の集大成として、何か残せないだろうかと思っていたときにこのような結果が残せたのは、自分一人の力ではなく熱心に指導してくださった、竹之内先生をはじめ先輩方や後輩たち、そして友人のおかげです。

これからも賞を取るために書いたり、現状に満足せずに、自分自身をたかめ、新しいことにも挑戦していきたいと思います。

佐賀大学では、学術研究や文化活動、スポーツなどで活躍した学生及び学生団体を表彰しています。
第7回目となる今回は、下記の学生たちが、長谷川照学長から表彰を受けました。

学生表彰授与式（平成19年5月30日）

文化教育学部
林（ハヤシ）　裕子（ユウコ）

平成18年度実用英語技能検定1級取得
第3回検定1級日本英語検定協会賞

この度は学長賞という名誉ある賞を頂きまして、大変光栄に存じております。思い起こせば、英検１級取得への道のりは決して平坦ではなく、語彙力強化や即興スピーチ、討論対策などで苦しむ時期もありました。しかし、今ではその経験が大きな自信へと変わっています。
学長賞受賞にあたり、指導教官の先生を始め、これまで熱心に指導してくださった先生方、応援してくださった皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも目標に向かって日々努力していきたいと思います。

医学系研究科
甲本（コウモト）　真也（シンヤ）

BIOCAMP 2006 in Japan
最優秀賞

バイオの知識とビジネスを合せて何かを生み出すというビジネスプランの構築という課題が体内モニタリングデバイス「NanoDoc」の商品化計画となり、結果ベストビジネスプランに選ばれたことが一番うれしく、大会は大変有意義で最高に楽しいものでした。

文化教育学部
西（ニシ）　優子（ユウコ）

第6回
佐藤太清賞展
福知山市長賞

文化教育学部
中島（ナカシマ）　由貴（ユキ）

第91回再興院展
入選

競技ダンス部（ペア）
松熊（マツクマ）　竜司（リュウジ）（理工）　近藤（コンドウ）　真由実（マユミ）（経済）

第42回全九州秋季学生ダンス大会　チャチャチャ/パソドブレ　優勝

医学部　準硬式野球部
代表者　吉岡（ヨシオカ）　航（ワタル）　他14名

第58回西日本医科学生総合体育大会　優勝

医学部　女子バレーボール部
代表者　土井（ドイ）　麻美（アサミ）　他22名

第58回西日本医科学生
総合体育大会　優勝

今回は学長賞という大変素晴らしい賞をいただき、部員一同うれしく思います。
部活動は部員同士が教えあい、自分たちで練習計画やメニューを考えて行っています。勉強との両立など、大変なこともありますが、そのぶん大会で優勝できたときの喜びは大きなものになりました。私たちがこのように活動を行っていけるのは、周囲の方々の応援や助けがあるからです。これからも、部員一同頑張りますので応援よろしくお願い致します。

医学部　男子バレーボール部
代表者　田中（タナカ）　賢一（ケンイチ）　他11名

第58回西日本医科学生
総合体育大会　優勝

この度は学長賞という名誉ある賞を頂きましたことを大変嬉しく思います。週に三回という限られた練習の中でどうすれば強くなれるかを考え、練習の質や密度の高さにこだわって懸命に努力したことが結果に繋がったのだと思います。日々の練習を支えてくれたマネージャーの皆さん、いつも見守り応援して下さっている先生・先輩方、本当に有難うございました。これからもこの結果に甘んじず、更なる努力をしていきたいと思います。

佐賀大学メールマガジン発行開始　登録受付中!!

～ 佐賀大学の情報満載 ～

平成19年5月から、学内外への情報発信のため本学の行事や職員、学生の活動の情報などを掲載した「佐賀大学メールマガジン」の発行を開始しました。
配信日は、毎月10日（休日の場合は、次の勤務日）となります。

配信希望の方は、本学HPから登録することができますので、　ぜひ、登録されて本学のリアルタイムな情報をご覧ください。

URL: http://www.saga-u.ac.jp/mailma/

問い合わせ先／佐賀大学広報室
電話 :0952-28-8153
E-mail :sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp

Open Campus 開催

オープンキャンパス(大学説明会)

夢をさがしにいこう

8/21 火　受付時間 10:00

本庄キャンパス
〈文化教育学部・経済学部・理工学部・農学部〉
鍋島キャンパス<医学部>

開催内容

●学部・学科紹介　●入試概要説明
●模擬授業　●体験学習　●施設見学　●質疑応答

昨年のオープンキャンパスでの学生相談コーナーの風景

各種資料請求及び問い合わせ先　佐賀大学入試課
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 TEL 0952-28-8178 FAX 0952-28-8170
URL http://www.sao.saga-u.ac.jp

編集後記

本年3月、広報担当理事の下に、「佐賀大学広報戦略会議」を立ち上げました。全入時代を迎え、大学の広報も、全学的な視点で、もっと戦略的にやらなければならない時期を迎えていると考えたからです。今や、大学広報も、いまある情報を単に流すというやり方から、より積極的に打って出るという広報に変える必要があります。これまで各学部や各部署でも、広報活動は行っていたのですが、会議を通して、全学的に協力し合って、どのような広報活動がより効果的であるかを検討できるようになりました。

その具体的な試みの一つとして、5月から「大学メールマガジン」を学外に向けても配信するようにしました。最新の研究成果、魅力ある教育活動、学生活動、イベント情報、入試情報、同窓会活動などについて、リアルタイムでお知らせいたします。このメルマガを通して、佐賀大学の今を、直接知って頂きたいと思います。

（広報室長　早瀬　博範）

【表紙画制作者】　文化教育学部 教科教育　准教授　栗山　裕至

夢の実現のためにカンボジアへ
～NGO カンボジア教育支援 from 佐賀～

文化教育学部
学校教育課程３年
小山修矢（こやま しゅうや）

希望に燃えて、いざカンボジアへ

「自分を変えたい」とか「見つめ直したい」とか、そんな思いではなく、ただ「世界の子供たちと触れ合いたい」というそんな自分の夢のために私はカンボジアへと旅立ちました。
今、私はカンボジアの地で日本語の教師をしています。

私はずっと自分の力の小さいことが悔しくて仕方ありませんでした。暖かい部屋のテレビで貧しい国の人々を見ながら、おいしいご飯を食べている自分。「何かしてあげたい」そう思いつつも何もできない自分。そんな自分に私は矛盾と無力感を感じていました。だから、出発の時は希望に燃えてました。現地に行くことでその悔しさを晴らせると思ったからです。

しかし、教師をやり初めて気づきました。
自分には日本語を教えること以外には何もできない。
親の代りに愛情を与えることも、お金をあげることもできない。
日本にいたときよりももっとはがゆさを感じています。

日本・カンボジア友好学園での授業風景

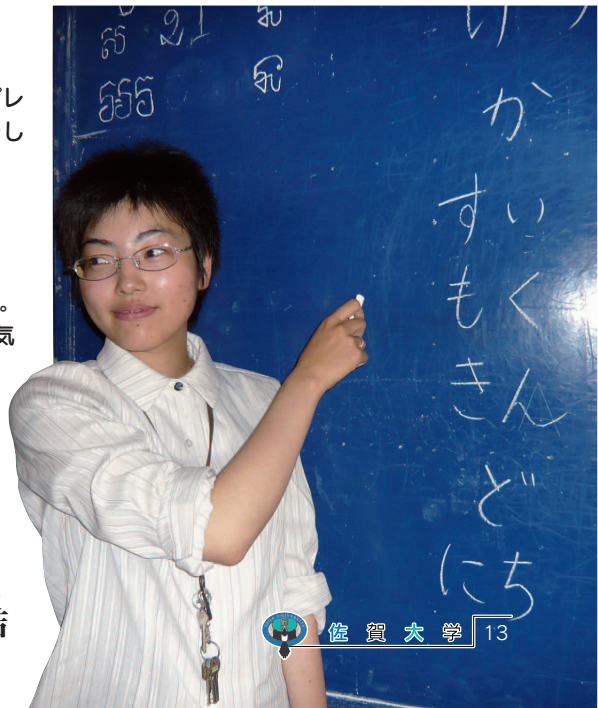
自分にできること。
それは日本の子供たちに貧しさについて伝えることだと思います。
世界中で、道端で倒れたときに無料で救急車に乗れる国がどれだけあるか。今日、明日の食べ物の心配をしなくてもよい国がどれだけあるか。
独立後、60 年間平和を保てた国がどれほどあるか･･･。こんなに恵まれた国はありません。私たちは何を苦しむのでしょうか。
日本の子供たちと「幸せ」について考えるために、今は目の前の子供たちと一生懸命向き合っていこうと思います。

牛や豚が訪問する校門。
夜は星の展覧会が開かれるグラウンド。
筋肉トレーニングに持ってこいの井戸。
先生を尊敬し、温かく接してくれる村の人々。
キラキラした目の子供たち。

ゆったりとした時間の流れるこの村での、一年間、たくさんの人と出会い、たくさんの勉強をしていこうと思います。

小さなことに喜びや楽しみを感じ

私は今、「NGO カンボジア教育支援 from 佐賀」という団体を通して、カンボジア、プレインヴェン州にある「日本・カンボジア友好学園」で中学１年生と一緒に日本語の勉強をしています。
４月 22 日に日本を発ち、早１ヶ月。
最初は衝撃的だった村での生活にも徐々に慣れ、充実した日々を送っています。
ここでは日本で経験することのない生活の基礎を学びました。
自分自身と向かい合い、時には不安や寂しさに耐えなければならないこともあります。
その一方で、小さなことに喜びや楽しみを感じ、心を躍らせるようになった自分にも気づきました。
人の温かさで心を休める、人間味溢れる毎日が今の私の全てです。
きっとここでの時間が、私にとっていつまでもかけがえのないものになるような気がします。
精一杯、笑顔で、楽しんでいきたいと思います。



文化教育学部
人間環境課程３年
案西弥結（あんざい みゆ）

佐賀大学広報誌 かちがらす 第10号
■編集・発行／佐賀大学広報室 ■〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 TEL:0952(28)8153 FAX:0952(28)8921
■発行日／2007年7月7日 ■ホームページ／http://www.saga-u.ac.jp ■E-mail／sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp

誌上ギャラリー

作品名「うごきだす」

杉尾（すぎお） 幸（みゆき）（文化教育学部美術・工芸課程3年・木材工芸専攻）

（平成19年度 第90回佐賀美術協会展彫塑部門にて最高賞の佐賀美術協会賞を受賞）

【作者プロフィール】

1986年　宮崎県川南町出身
2005年　佐賀大学入学
　　木材工芸研究室所属
　　宮崎市美術展　奨励賞
2006年　佐賀美術協会展
　　佐賀県美術館長賞
　　宮日総合美術展
　　佐賀県美術展　入選
2007年　宮崎県美術展　準特選
　　～その他公募展に出品

【作者コメント】

生き物をテーマに作品を制作しています。

今回の作品は今動き出そうとしているイモムシをイメージしました。今回の制作を通じてこれまで以上にボリュームのある作品に仕上がった反面、イメージを形にしていくことの難しさを感じました。

本学の情報を携帯電話で見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。
携帯用 URL:http://daigakujc.jp/u.php?u=00147